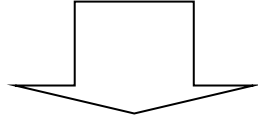


	育てたい力	具体的な授業改善策
国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>語彙を増やし、自分の考えや思いを的確に伝えたり、豊かに表現したりすること。</li> <li>伝えたいことを明らかにするため、事実と感想・意見を区別したり、表現を工夫したりして、自分の考えをまとめ、話す、書くなどして、相手に確かに伝えること。</li> <li>文章の全体像を把握し、文章を基に、必要な情報を選んだり、人物の相互関係などを捉えたりして、論の進め方や表現の効果を考えながら読むこと。</li> <li>互いに話したり聞いたりして考えや思いを共有し、自分の考えを広げること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新聞を定期的読む活動や、教師の使う言葉を意図的に変えることで、普段から触れる語彙の量を増やす。</li> <li>日常的なスピーチ活動を行い、相手意識をもって話すこと、また、話者の言葉に耳と目を向けて聞くことを基本から繰り返し指導する。</li> <li>文章全体を、説明的文章ならば意味段落を、文学的文章なら場面を分けて捉えることで、どのような構造で文章が書かれているかつかませていく。</li> <li>考えをまとめる際に、叙述や描写のどこを根拠としたのか明らかにするよう指導する。</li> <li>ノートには、自分の考えと友達の考えとを記号や色で区別して記録させ、最終的に自分の考えが変容したことを認識させていく。</li> </ul>
社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>表やグラフ・地図などから読み取った数値や事象を活用して、考えを表現しまとめたり、人の意見を比べて考えを広げたりすること。</li> <li>調べる目的や相手に応じて、資料集やインターネットなどの情報を探し、選択し、活用して、課題解決につなげること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習の動機付けが図れるような身近な題材を取り上げた表やグラフ、地図などを定期的授業の導入で活用し、読み取りや考察におけるスキルの向上を図る。また、自分の見方にはない友達の考えを記号や色で区別して記録させ、見方の変容に気付かせる。</li> <li>単元の初めに、児童とともに小単元を貫く学習課題を立て、教材に取り組むための見通しをもたせて、集めるべき情報の観点を明確にした授業を組み立てる。</li> </ul>
算数	<ul style="list-style-type: none"> <li>数や式が表す意味に着目し、目的にあった表現方法を用いて数の性質や計算の仕方を考えること。</li> <li>小数や分数の乗法や除法の意味や、計算の仕方を理解すること。また、計算することができて、日常生活に生かそうとすること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ペアやグループで考えを発表し合う場面を設定したりなどして、友達の考えを聞くことにより、多面的に捉えていけるようにする。</li> <li>小数や分数の意味が理解でき、確実に計算できるよう、繰り返し適用問題に取り組ませる。</li> </ul>
理科	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習内容を理解し、観察・実験に関する基本的な技能を身に付けること。</li> <li>課題を解決する中で、予想や仮説を基に解決の方法を根拠立てて考えること。</li> <li>観察や、実験の結果からどんなことが言えるのか、自分の考えをまとめて伝えていくこと。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>活動ありきではなく、何のためにどのような観察・実験をしているのか意識付けを十分に図る。授業前に予備実験を行った上で、より安全な方法や道具の操作を指導していく。</li> <li>学習課題を明確にした上で、既習事項や経験を基に、実験方法などを考えさせる。正誤にかかわらず、その方法を選んだ根拠を確かめる。</li> <li>既習の観点「比べる」「関連付ける」や元の予想や仮説の根拠を活かしながら、考察や結論を導き出すように学習を進める。</li> </ul>
体育	<ul style="list-style-type: none"> <li>自己の課題を的確にとらえ、その課題解決のための方法を自己の能力に合わせて考え、運動に取り組むこと。</li> <li>運動の楽しさや喜びを味わい、技能を高めること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習カードを用いて、毎時間のめあてを一人一人がきちんと持つ。</li> <li>友達同士で見合う場を作り、互いに良さや課題を伝え合い、めあてを達成できるようにする。</li> <li>いろいろな場を用いて、楽しみながら活動できるようにする。</li> </ul>

道徳	<ul style="list-style-type: none"> <li>教材を通じて、道徳的価値をよりよく生きる上で大切なことだと理解し、自分なりの考えをもつこと。</li> <li>人との意見交流や自己の振り返りをする中で、物事を多面的・多角的に捉えて考えること。</li> <li>自我関与や役割演技などの活動を通して、自分の経験や見方を照らして考え、理解を深めたり、実生活につなげたりすること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>挿絵を利用して話の展開を確認するなど、短時間で全員の共通理解が図られるような手立てをとる。</li> <li>授業の始まりと終わりで、ねらいについての自分の考えが、深まったり変化したりしたことが分かるような板書の仕方に変える。また、教材をたどる板書ではなく、児童の気付きを中心に黒板に記録していく。</li> <li>考えたことや実生活にいかそうとする心情を見取ることができるように、「自分だったらどうか」という観点で考える時間を意図的に設けたり、感想カードやノートに考えを残したりする。</li> </ul>
総合	<ul style="list-style-type: none"> <li>八ヶ岳の環境、米作り、日本の食文化などについて自ら課題を立て、必要な資料を集めたり、実際に体験したりすることで解決しようとしていくこと。</li> <li>調べたことを様々な方法でまとめ、発表していくこと。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習の導入を工夫し、児童が自ら疑問や課題を見付けられるようにしていく。そのために、映像や写真などの視聴覚教材を活用していく。</li> <li>新聞、ポスター、図、表など効果的な表現方法を伝え、自分でまとめ方から選択し、発表できるようにしていく。</li> </ul>
家庭科	<ul style="list-style-type: none"> <li>ミシン、裁縫道具などの正しい使い方を覚え、簡単な小物を作ること。</li> <li>栄養素などを知り、食事の大切さに気付いていくこと。</li> <li>家族の一員として自分ができる家事にとりくんだり、お金の使い方を考えたりしていくこと。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ICTを活用して、基本の縫い方、針や糸の扱いを分かりやすく示していく。玉結び、玉留めなど授業の中で繰り返し取り組ませ確実に習得させる。時には保護者ボランティアも募り、個別対応を助けていただく。</li> <li>視覚的な要素を取り入れて、5大栄養素を含む食品や、栄養の効果などを理解できるようにしていく。給食の献立表なども活用し日常生活の中でより理解を深めていく。</li> <li>家族のために自分ができることは何か考え、意欲的に取り組んでいけるように課題提示を工夫したり、取り組みカードなどを作成したりしていく。</li> </ul>
音楽	<ul style="list-style-type: none"> <li>主体的に音楽に関わり、協働して音楽活動をする楽しさを味わいながら様々な音楽に親しむこと。</li> <li>曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように表すか思いや意図をもつこと。</li> <li>表したい音楽表現をするための技能を身に付けること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎時のねらいを明確にし、個人の学習活動を保証すると同時にペア、グループ学習を有効に取り入れる。</li> <li>個人の思考の時間や周囲との交流の時間を取りながら自分の考える表現に自信をもつよう導く。</li> <li>運指表の掲示や机間指導を通して個々人の進度に気を配るようにする。</li> </ul>
図工	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の感覚や行為を通して、造形的な視点をもち自分なりに形や色などを捉えること。</li> <li>造形的なよさや美しさ、表したいこと、表し方などについて考え、発想や構想をし、主体的に表現すること。</li> <li>これまでの経験や技能を活動に応じて活用すること。</li> <li>親しみのある作品などを鑑賞し、自分なりに感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を深めること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>形や色からイメージをふくらませることができるよう、抽象表現にふれることのできる題材に取り組む。</li> <li>自分の表したいイメージに近づけるよう、繰り返し試し作り変えることができるような題材や場の設定を行う。</li> <li>既習の道具や材料については、活動に応じてできる範囲で児童からの申し出があれば使えるように用意しておく。</li> <li>自分たちの作品の他、芸術家の作品にも触れる機会をもつ。対話式鑑賞を定期的に行い、鑑賞のおもしろさを感じることができるようにする。</li> </ul>

外国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>・英語での会話や文章を聞いて、知っている単語を聞き取ること。</li> <li>・日常生活に関する表現を覚え、友達と簡単なやりとりをしたり、自分のことを発表したりすること。</li> <li>・アルファベットの大文字、小文字を活字体で書くこと。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・デジタル教材やALTの発音を聞かせる時に、どんな単語が聞こえたかを意識させる。正しく聞き取れたことを認め、聞きたいという意欲や地震につなげていく。</li> <li>・チャンツ、ゲームなどを用いながら楽しくリズムよくフレーズを言えるようにする。</li> <li>・補助線入りのワークシートで、大文字、小文字を正しく書けるようにしていく。</li> </ul>
-----	--	--



	成果○ と 課題▼
国語	
社会	
算数	
理科	
体育	
道徳	
総合	
外国語	

家庭科	
音楽	
図工	